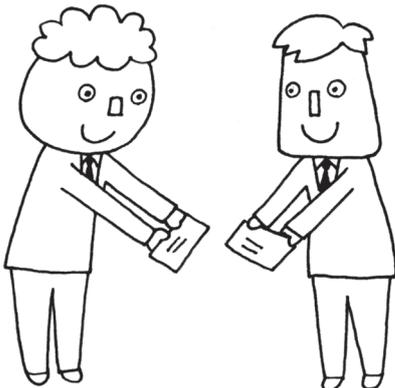
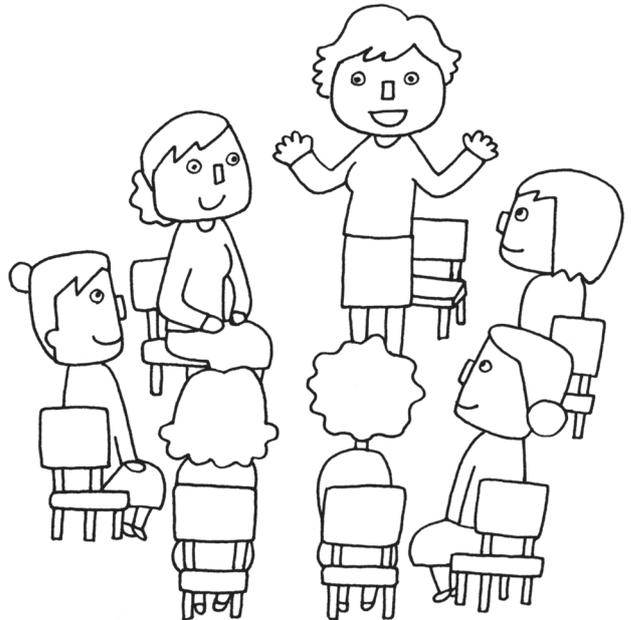
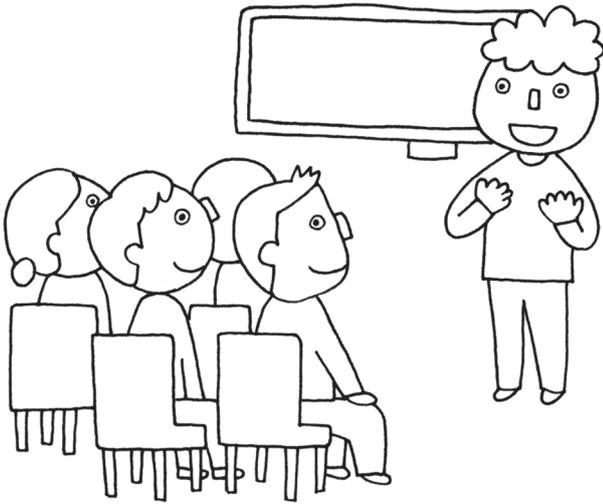




1 あいさつ

- 「はじめまして」



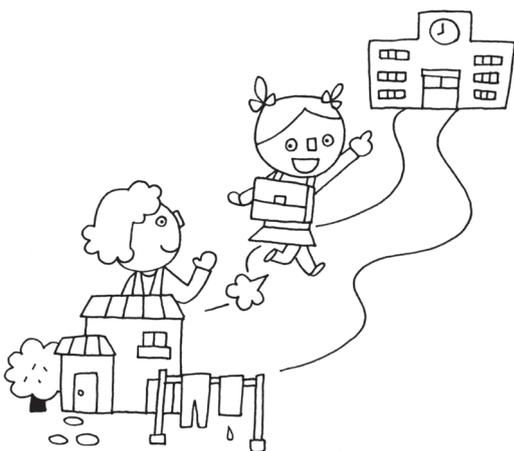
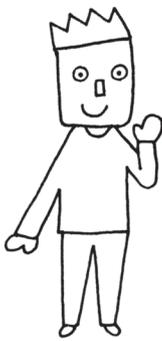
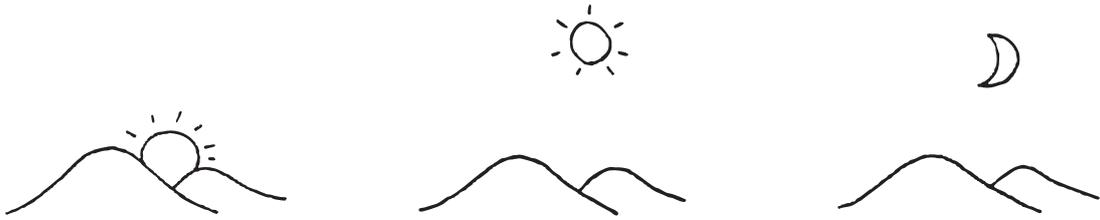


がくしゅうしゃ

学習者のページ

1 あいさつ

●あさ・ひる・よるのあいさつ





パートナー 支援者のページ

1 あいさつ

●「はじめまして」



はじめて会ったわたしたち。
まず、パートナーのあなたから、自己紹介のあいさつをしましょう。
(身振り、手振りをまじえながら、ゆっくり言いましょう。)

名札があれば、名前を言うときに名札を指さして言いましょう。

住んでいるところを話すときは、**わたし**の絵と次のページの**家**の絵と地図があれば、わかりやすいでしょう。

自己紹介の意味がわかれば、学習者にも自己紹介をしてもらいましょう。

外国の人が自己紹介するとき、「○○から(どこの国から)きました」ということが多いですね。

57～58ページの★世界地図を使って、「どこから来ましたか？」と聞いて、答えてもらうのもいいでしょう。

あなたが、実際に名刺を持っていれば、名刺を使ってあいさつをしたら、絵を見るだけよりよくわかりますね。

初めて会う人とは『はじめまして』というあいさつがありますね。

2回目に会った時に使うのはおかしいということ、学習者にわかってもらうために、自己紹介と一緒に覚えたほうがいいでしょう。

自己紹介では、名前を言うだけのときもあれば、職業、家族のことなど、自分が相手にいたいことを色々話しますね。

家族の写真を持っていると話がはずみます。良ければ用意して使ってください。

あなたの自己紹介を先にすると、同じように学習者も言ってくれるでしょう。ただし、できるだけ学習者がたくさん話ができるように心がけ、支援者(パートナー)が話しすぎないように気をつけましょう。

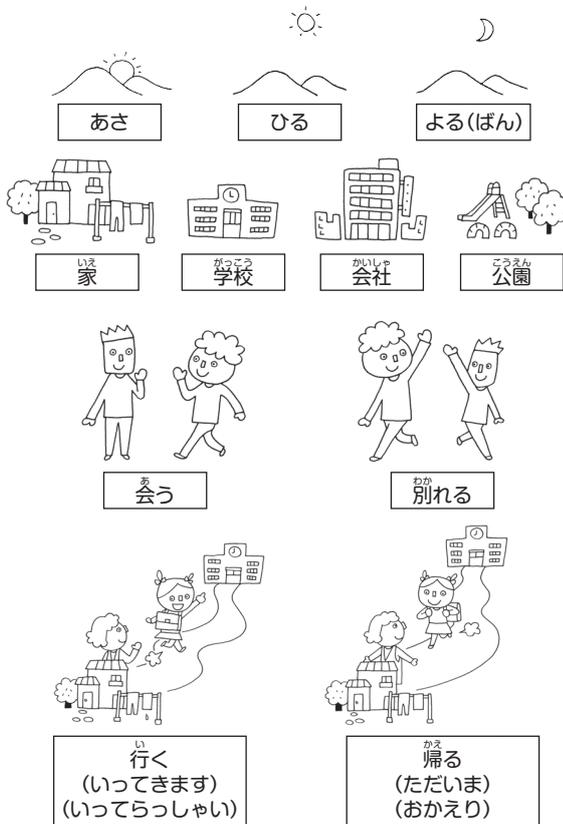
自己紹介の最後に「よろしくお願ひします」と言って終わることが多いですね。



パートナー 支援者のページ

1 あいさつ

●あさ・ひる・よるのあいさつ



朝・昼・夜(晩)であいさつが違いますね。それぞれの絵を指さして、場面を設定してから、適したあいさつをしましょう。

学習者の職業や生活環境を考えて、身近な例を使いましょう。

<使い方例>

* **あさ** と **学校** と **会う** の絵を指さして、「おはよう」と言う。

* **あさ** と **会社** と **会う** の絵を指さして、「おはようございます」と言う。

❗「おはようございます」は「おはよう」より、ていねいな言い方だと相手の母語で説明する必要があるときは、5～6ページの表を使ってください。

* **ひる** と **学校** と **別れる** の絵を指さして、「さようなら」と言う。

* **よる** と **会社** と **別れる** の絵を指さして、「お先に失礼します」というあいさつを覚えたほうがいい学習者もいるかもしれませんね。

❗「おつかれさまでした」というあいさつは、日常的に使われていますが、年齢や地位が自分より上の人に対して使うと違和感を感じるという人もいます。

場所や場面によってあいさつが違うことを理解してもらい、繰り返し練習してもらいましょう。

学習者によっては、「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」、「さようなら」だけを学習して、一度にたくさんのあいさつを学習しないほうがいいのかもありませんので、注意しましょう。

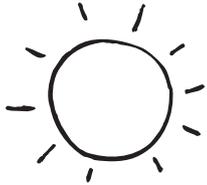
ここでは、学習者の国のあいさつを教えるもらったり、日本ではおじぎをする習慣があることを理解してもらうなど、ことばだけではなく、実際におじぎをしたり、身振り手振りを加えながら話すのがいいと思います。

「あなたの国のことばでは何といいますか？」と聞きたいときは5～6ページを活用してください。



1 あいさつ

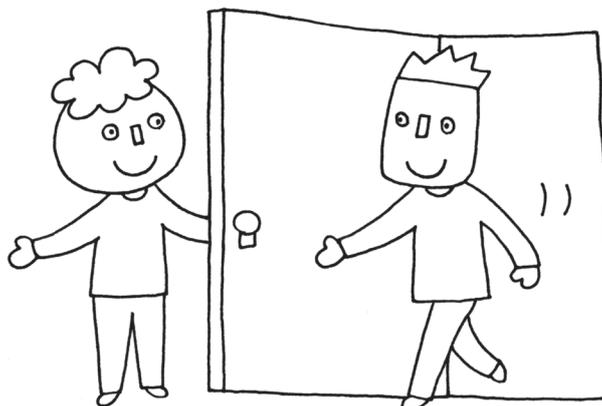
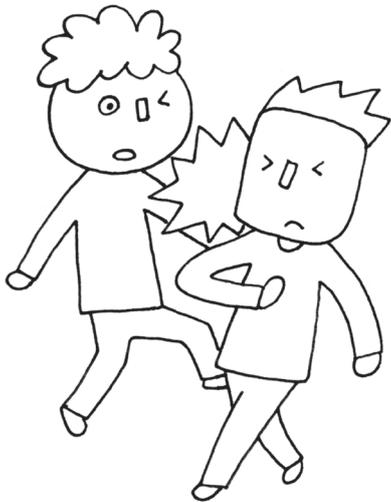
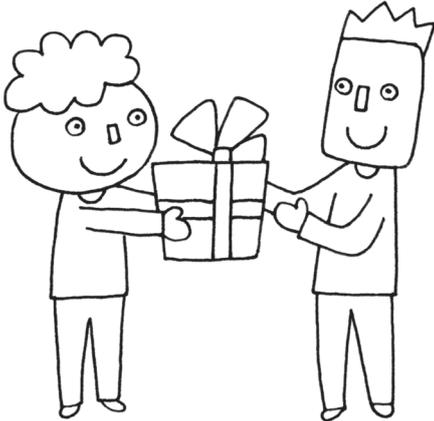
●いろいろなあいさつ





1 あいさつ

●こんなとき、なんといいますか？





パートナー 支援者のページ

1 あいさつ

●いろいろなあいさつ



はれ



くもり



あめ



はる



なつ



あき



ふゆ



いただきます



おいしい



ごちそうさま

❗ このページは少しレベルが高くなります。新しいことばをどれくらい紹介するか、学習者に合わせて考えてください。

天気について「はれ」「くもり」「あめ」ということばがあることを知ってもらいながら、あいさつしましょう。

❗ 晴れるとき「いい天気ですね」とあいさつできればいいですね。

できれば、季節や気温によって、ちがうことばであいさつできることを紹介してみましょう。

絵を見て、食事の前後のあいさつを紹介しましょう。

あいさつする時に天気のことを言う国は多いようです。わたしたちもよく天気や気温のことをあいさつの時に話しませんか？「暑い」「寒い」「あたたかい」「すずしい」などのことばが覚えられるようだったら紹介してみてください。

食事の時のあいさつで、「いただきます」や「ごちそうさま」というのは、学習者の国にはない習慣かもしれません。食事のマナーについても国によって違いがありますね。イラストにあるようにお茶碗を持って食べるのは行儀が悪く、テーブルに置いたまま食べたほうがいいなど、日本とは逆の場合もあります。また、あいさつではありませんが「おいしい」ということばを使えると、一緒に食事をしている人も、料理を作ってくれた人もうれしい気持ちになっていいですね。でも反対の「まずい」ということばは最初は覚えられないほうがいいのではないのでしょうか？間違えて使って、相手に誤解されてしまうかもしれませんから。



パートナー 支援者のページ

1 あいさつ

●こんなとき、なんといいますか？



プレゼントをもらうとき
「ありがとう」



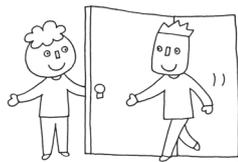
寝るとき
「おやすみなさい」



ぶつかったとき
「すみません」



道をたずねるとき
「すみません」



へやに入るとき
「失礼します」

いろいろな場面で使うことばを、紹介しましょう。

「ありがとう」と、ていねいな言い方の「ありがとうございます」の両方を一度に覚えたほうがいいのか、学習者に合わせて学習してください。
「おやすみ」と「おやすみなさい」も同じですね。

「すみません」ということばは、呼びかけと謝罪の両方に使える便利なことばですね。

面接や仕事など、あらたまるところでは、「失礼します」と言って入り、相手の人は「どうぞ」という場合が多いですね。
実際に教室のドアを使ってやってみるのもおもしろいかもしれません。

ありがとうということばは、言ったほうも、言われたほうも幸せな気持ちになることばですね。「当たり前」の反対ことばだとも言われています。ここでは、プレゼントをもらうイラストを使っていますが、ほかにも色々な場面を考えて、ありがとうのことばを練習しましょう。プレゼントをあげるほうのことばは、「どうぞ」と身ぶりを加えて言うのが簡潔ですが、他にも、「中国のお菓子です。食べてください。」と言って渡す場合もあるかもしれませんね。あまり難しい言い方にならないように気をつけて学習者にあったことばを考えてください。
謝るときには「ごめんなさい」と言うほうが、気持ちがこもっているかもしれませんが、職場などのあらたまった場面では「すみません」のほうを覚えたほうがいいでしょう。一度にたくさんのことばを覚えるのが大変な場合は、ていねいな言い方から覚えたほうがいいのかもかもしれません。1つのイラストから、学習者の必要なことばを色々な角度から紹介できるように、工夫してみてください。